

自然

と伝統 身近に 快適



淡河の田園風景。北区は豊かな自然と農村文化が現存する



昨年10月に行われた農村歌舞伎



の上演会＝北区山田町下谷上、天彦根神社

神戸市北区が8月、誕生から50周年の節目を迎えた。1973(昭和48)年に兵庫区から分区分して以降、道路整備や宅地開発が進み、人口が増えた。快適な環境を整えられた一方で、豊かな自然や農村、伝統的な文化もしっかりと引き継がれている。そんな地域の魅力が今、あらためて見直されている。50周年を節目に活気づく北区の歩みと現状を紹介しよう。

豊かな農作物、農村文化も健在

六甲山の北側に広がる北区は広さ240平方キロ、全市の44%を占める。神戸市全9区の中で最も広く、人口は分区分当時から約2倍に増えた。農業は今も盛んだ。灘の酒の原料にもなる酒米「山田錦」、イチゴ、新鉄砲ユリやチューリップなど多くの特産品があり、地域経済を支えている。伝統的な農村文化も健在だ。現存する民家で最古の「箱木千年家」を代表とする茅葺き民家が700戸程度点在。多くが住居などとして今も活用されている。か、江戸時代の庶民文化を伝える農村歌舞伎舞台も残る。上谷上、下谷上などの舞台は今も活用され、地域

団体などが上演会を開催。伝統建築を「使うことで守る」取り組みとして注目されている。このほか、淡河八幡神社の御弓神事、六條八幡神社の流鏝馬神事などの伝統行事も残り、都市と農村の交流に貢献している。



地域と共に 50周年記念の取り組み

旧兵商校舎をライトアップ トークセッション続々と

50周年の取り組みは、行政だけでなく地域や民間事業者と連携して進めている。

旧兵庫商業高校の校舎を使用したライトアップ企画「てるてるきたく」＝写真下＝や北区で活動する人同士をつなぐトークセッション「きたくろす」も実施中。

北区の50周年を写真と年表で振り返る「あゆみ」が1日、発表された。神戸電鉄は、50周年記念ロゴのヘッドマークを付けた車両を走



4年ぶりに復活する大沢町「どろんこバレー」ボール大会

らせる。このほか8月6日には大沢町で、4年ぶりに「どろんこバレー」が復活。10～12月には「茅葺き屋根とふれあう月間」が開催される。歴史、伝統、自然と新たな活動の組み合わせが北区らしい。



50周年特設ホームページはこちら

新北区文化センター



・図書館、25年度完成予定



旧区役所跡に文化・交流拠点

北区を代表する地区の一つ、神戸電鉄鈴蘭台駅周辺は、地域の玄関口として発展してきた。さらに快適で安全な暮らしを目指し、今も再開発が進んでいる。2025年度に旧北区役所跡地に完成予定の「新北区文化センター・新北図書館等」＝写真＝は、新たな地域の文化・交流の拠点となる。

また、災害に強く安全な暮らしを目指した駅北地区。数は増加傾向にある。教育分野では、今春、八多小学校と八多中学校が統合し、農村エリア初の義務教育学校八多学園が誕生した。学園と地域住民が協力して体験学習や地域学習を充実させるという。今年4月には道の駅「神戸フルーツ・フラワーパーク大沢」に茅葺きをコンセプトとした「BE KOB E」のモニュメントが完成。

の区画整理事業も進められている。他の地区でも、北区民の暮らしを支える神戸電鉄が駅舎改築に着手。今年は大池駅、花山駅がリニューアルされた。新神戸駅から谷上駅を結ぶ北神急行が20年に市営化されて以降、運賃値下げ効果もあって利用者

北区の魅力発信拠点として存在感を高めている。同市は近年、新規就農支援など、農村の活性化(里山暮らしの推進)にも力を入れている。コロナ禍による田舎暮らしのニーズの高まりもあって、北区への移住希望者も増えつつあるという。

- 北区50年のあゆみ
- 1973年 北区発足
 - 76年 新神戸トンネル開通
 - 88年 北神急行が開業
 - 89年 しあわせの村オープン
 - 95年 阪神・淡路大震災
 - 2001年 有馬温泉に太閤橋が完成。「銀の湯」「金の湯」がオープン
 - 03年 淡河町に市内初の「道の駅」が開設
 - 18年 北区役所が移転(鈴蘭台駅)
 - 19年 北神急行が開業(岡場駅)
 - 20年 北神急行の市営化
 - 23年 茅葺きの「BE KOB E」モニュメントが設置(大沢町)
 - 義務教育学校「八多学園」が開校(八多町)
 - 北区50周年



北区のマスコットキャラクター「キタールさん」



北神担当区長 山本 智康氏

多彩な魅力もっと発信
北区の北部に位置する北神地域は、ニュータウンや昔ながらの農村、豊かな自然環境に加え、日本三古泉である有馬温泉や集客力の高い商業施設など、多彩な魅力を持っています。2019年には、北区で二つ目の区役所として「北神区役所」が設置され、区民サービスの向上と地域活性化に取り組んでいます。北区発足から50年を契機に、より一層北区の魅力を発信していきたいと考えています。



北区長 金本 忠義氏

さらに住みよい北区に
北区は、昭和30年代後半からの宅地開発により人口が急増し、1973年に兵庫区から独立する形で誕生しました。一方、戦後に神戸市域に編入された農村部には、豊かな自然や市の財産とも言える文化財が多く残っています。最近では、神戸電鉄の駅周辺整備や北神急行の市営化などにも取り組み、新・北区文化センターの建設にも近く着手します。50周年を機に、さらに住みよい北区を目指していきます。